



## コロナ禍における市議会の対応・議論

2019年12月、中国武漢市において最初の患者が報告された新型コロナウイルスは、瞬間に日本に上陸し、今現在も猛威を振っています。武蔵野市では令和2年2月ごろから様々なところで影響が

出てきました。その時々市議会はどのように対応し議論したか…。この1年を振り返り、主だったことについて報告いたします。

## 一斉休校→暫定再開発表→再び延長・現場は大混乱

政府から一斉休校の要請が発表され、武蔵野市では**令和2年3月3日**から公立小・中学校が**一斉休校**となりました。それから1か月後の**4月3日**、市議会各会派の代表者による会議を開催したところ、行政側から、休校していた小・中学校を**4月6日**から**暫定的に再開**するという報告を受けました。議員からは「教職員の健康チェックは？」「専門家の判断は仰いだのか？」など心配の声もありましたが、議会で議決することではないため行政の判断

に任せる形となりました。その後、学校再開の情報が保護者に連絡されると、「こんな状況で学校再開などありえない」などの苦情が私を含め多くの議員に寄せられました。また、新聞報道によると行政にも**4月3日**に**200件**ほどの電話が寄せられたそうです。これを受けて、行政側は翌日の**4月4日**に**急遽再開を延長**するという方針転換をしました。急ピッチで準備を進めていた保護者、児童をはじめ学校関係者の混乱は計り知れないものでした。

新聞記事のインタビューで松上市長は「そこは**判断ミスだったかな**」と答えたそうですが、議会に報告した次の日に方針が変わってしまったことで議会も相当困惑し関係者に対して大変心苦しい思いでした。



## 成人式も急な方針転換・こちらも大混乱

武蔵野市では**令和3年1月11日**に「**未来をひらくはたちのつどい**」（成人式）を予定し、実行委員会を中心に準備を進めていました。先が見えないコロナ禍の中、本当に開催できるのだろうか心配していたところ、近隣市である調布市が12月21日成人式の中止を決定しました。そこで担当者に「武蔵野市は本当

に開催できるのか、自分としては心配だ」という旨を伝えたところ「午前・午後2回に分けて開催するから大丈夫です。近隣でも中止するのは調布市だけで**武蔵野市はやりま**す」と自信ある回答を得ました。しかし、年が明けた**1月4日**、市は突然**成人式中止**という方針転換をしました。成人式の1週間前に中止と

いわれた新成人、ご家族、関係者の方のことを思うと本当に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。中止に伴い市では、実行委員会が作成した動画メッセージをホームページで配信しました。現在、議会では成人式に代わる代替案を要望する発言などもあり、今後注目したいと思います。

## 緊急事態宣言発出・その時議会は

**令和2年4月7日**、政府は東京都などに対し**緊急事態宣言**を発出しました。これを受けて市では職員が**交代制で在宅勤務**になるなど、感染拡大を防止しながら業務を続ける体制となりました。

一方市議会では**4月8日**、閉会中の**不要不急の登庁は自粛**することなどの方針を決定し、議長以外の議員はしばらく**自宅での自粛**となりました。問題は議員間での打ち合わせが容易にできなくなったことです。「行政との情報

共有はどうする？」「定例の議会に加えて臨時議会の開催は？」など、次から次へと出てくる課題に対して議長一人では判断できないこともあり、そこで・・・

### ① Zoomを使ってのオンライン会議

議長、副議長、議会運営委員会委員長、副委員長、議会事務局長、次長の6人で Zoom を使っての**オンライン会議**を始めました。原則、行政が行う新型コロナ対策本部の会合の後にオンライン会議を設定し、会議に出席している事務局長からの報告を共有するとともに、議会運営の方向性などについて相談することができました。ちなみに現在では、オンラインによる

**議会運営の懇談会**や全議員を対象にした**オンライン勉強会**なども行っています。

また、市議会では、緊急事態宣言発令中は3密を避けるため、議会への説明員を**最低限度**にすることや、常任委員会（総務、文教、厚生、建設）、特別委員会（外環）での**傍聴はご遠慮いただく**ことを決定しました。当時、本会



議および予算・決算委員会はインターネット中継をしていましたが、それ以外の委員会などは行っておらず、傍聴をご遠慮した場合、市民への**情報公開**が問題となりました。そこで・・・

### ② 常任委員会、特別委員会のインターネット中継

**常任委員会などのインターネット中継**は長年議論が続いていましたが、結論が先送りされなかなか実現していませんでした。そこで、市民への情報公開の一環として議長から提案

させていただき、令和3年3月末まで暫定的に常任委員会、特別委員会のインターネット中継を行うことを認めていただきました。その後議論が進展し、**令和3年4月以降**も恒常

的にインターネット中継が行われることが決定しました。



## 令和2年度は定例会4回、臨時会3回開催

令和2年度は、コロナ禍によって相当な苦勞をされている市民や事業者の負担を少しでも軽減するため、年4回の定例会に加え、

臨時会を3回開催し、市民や事業者に寄り添う補正予算を議決しました。特に、議員から要望が多かったのが**中小企業に対する支援金**

であり、合計約**11億7000万円**が多く市内中小企業に配布されることが決定しました。ところが・・・

## 約5億円も余ってしまった支援金

議会が中小企業の支援のためにと議決した約11億7000万円は**行政の見積もりミス**のために**約5億円**も余ってしまいました。余ったのならば、長引くコロナ禍でまだまだ疲弊している中小企業に対して、**第3弾の支援金**を配

布すべきとの声が議会でも上がりましたが、その予算は「**武蔵野市暮らし地域応援券**」の財源として流用されることになりました。本来、中小企業支援のために議決したものでしたが、応援券の目的が「市民の生活支援」「市内事

業者支援」「地域の活性化」となっていたので、市民や市内事業者支援につながるのならば、と多くの議員も賛同したところですが・・・

## 地域応援券市議会で問題点を指摘

地域応援券は1000円以上（税込み）につき500円券が1枚使用できる割引券であり、大型店（売り場面積1000㎡以上）で使える

A券4枚、大型店を除く参加店で使えるB券6枚が市民全員に配布されました。当初から市民や事業者にわかりづらいという声がありま

したが、市議会でも複数の議員から問題点が指摘されました。



## 市議会で指摘された主な問題点

- ① なぜ金券としなかったのか
  - ② 1000円未満の買い物に使えない（650円のラーメンには使えない）
  - ③ 使用期間が2月20日～3月31日までと短い
  - ④ 単独店のコンビニはA・B券ともに使えるが大型店舗内のコンビニはA券のみしか使えないのは不公平だ
  - ⑤ 資本金が数十億円のスーパーでも面積が1000㎡未満なら大型店とならずA・B券とも使えことになると近隣小型店への影響が大きくなるのでは
  - ⑥ 市内事業者支援が目的だが、市の外郭団体である市民文化会館など（その他にも市民防災協会、福祉公社など）が参加団体になっているのは趣旨が違う
- ・・・など



さまざま課題はありますが、応援券を使用することで市民の生活支援、事業者の支援につなげていただきたいと思いますので、ぜひ残さず**全部使いきっていただけると幸いです。**

## 令和3年度は約30億円の減収見込み

長引くコロナ禍により、法人・個人市民税の減で約**13億円**の減収、都市計画税の税率引き下げなどで約**16億円**の減収が見込まれ

ます。コロナ禍の終息が見えない中、令和3年度は新規事業や**不急の事業**など控えるべきとの議論がありました。



## 18歳までの医療費無償化は今やらねばならないか

現在行われている**15歳**までの医療費無償化を**18歳**までにするという議案が、賛成15反対10で可決されました。これは市の単独事業となり、来年度は約**4000万円**、令和4年度からは毎年約**8500万円**の支出が見込まれます。議会では、「**新規事業なのに、市民の声を聴かなくていいのか**」「**コロナの終息が見**

**えない時期にどうしても来年度から始めなければならぬ事業か**」などの議論がありました。武蔵野市では、昨年4月自治体の基本的なルールを定めた「武蔵野市自治基本条例」が施行されました。この条例の中には、市民参加の手続きとしてパブリックコメントや意見交換会を開催することが定められていますが、

今回は両方とも実施しないということが議会で明らかになりました。自治基本条例施行後の新規施策で今後多額の支出が必要になる事業なので、せめてパブリックコメントはやってほしかったという声が議会でも聞かれました。

**ご意見ご要望をお待ちしております**



詳しいプロフィールは  
こちらからご覧ください

<https://www.go2senkyo.com/seijika/31172>



フェイスブックも  
ご覧ください

<https://www.facebook.com/yasuhiro.omino>